BELLS LETTER

Dec.2021 VOL.037 presented by BELLS
波乗りリフォーム屋の独り言

紅葉

今年の春先、芽吹きの前に植えられた庭の植栽たちが茅ヶ崎で初めての冬を迎えようとしています。西東京の畑から運び込まれた木々たちの当初の姿といえば、葉っぱは無く枝だけの裸木。そこから新緑を迎え、わっさわっさと葉っぱが出てきた夏が過ぎ、気が付けばモミジやコナラの葉は色づきはじめ、あっという間に紅葉の季節です。１年って早いですね～、なんて落ち葉を掃除しながらしみじみと今年を振り返ってしまいます（笑）。さて今回は、そんな「紅葉」のお話です。紅葉は大自然が見せてくれる芸術的な風景ですね。山や庭園の木々たちが赤や黄色に染まり奥深い色彩のハーモニーを奏でるさまは、まさに大自然のアート！そもそも紅葉とは木が冬に向けて葉っぱを落とす前の準備です。葉っぱの役割を停止していく過程で、葉色が緑から黄色へ、さらに赤へと変化し、その後枯れて落葉します。なぜ葉っぱを落とすかというと、冬になると乾燥して水分量が減り、気温も下がるため木の活動は弱まります。そのとき葉っぱを付けていると貴重な水分がさらに減ってしまうので、木は自身を守るために葉っぱを落とすんです。我が家の庭の高木の植栽はほとんど葉っぱの落ちる落葉樹です。南側には背の高い３本のコナラの木。モミジほど赤くはなりませんが、黄色からオレンジのグラデーションが里山の雰囲気を醸し出してくれます。東側にもコナラが１本。さらに大小４本のモミジにジューンベリー、エゴノキが植わっています。モミジは言わずと知れた紅葉の王様。真っ赤に色づいた葉っぱを見ると日本人に生まれて良かった～と思わせてくれます(笑)。木の種類によって紅葉する色や時期は異なりますが、11 月中旬頃から色づきはじめ、しばらくの間、私たちの目を楽しませてくれます。さてそんな紅葉ですが、日本は世界一紅葉の美しい国だって事をご存じでしたでしょうか。紅葉が大規模で観られるのは、地球上でも日本を中心とする東アジア、ヨーロッパ、北米の東側だけだそうです。その中でも日本はヨーロッパや北米に比べて、ダントツに紅葉する樹木の種類が多いようです。落葉広葉樹の種類は日本は 26 種類、ヨーロッパで 13 種類、紅葉が有名なカナダでも同じく 13 種類です。紅葉する木の種類が多いということは、それだけ色の種類も多くなるということです。海外では、赤なら赤、黄なら黄、というように一色の紅葉が一般的ということで、日本のように赤や黄の葉や、もとから紅葉しない緑の葉をいっぺんに見られる場所は少ないようです。この季節何気なく目にする紅葉って、世界からみると希少なんですね。いかがでしたでしょうか。ちょうどこの記事を書いた次の日、激しい風と雨で紅葉した葉っぱが一気に落ちてしまいました・・・（涙）。春の桜もそうですが、儚いからこそより美しく感じるんでしょうかね～。

道路側からきれいに見える赤く染まったイロハモミジ

南側のコナラの木立は里山の秋を感じさせてくれます。

旧車好きの葛藤

15 年間ありがとう！思い出の詰まった愛車ボルボ 240

写真はボルボ 240。スウェーデンの自動車メーカーのボルボが 1974 年から 1993 年まで生産したボルボ車の中でも一番のロングセラー車です。この角ばったデザインは 1966 年のボルボ 140 からほとんど変わっておらず、長らく愛されてきた名車です。そんな車だけにマニアも多く自分もその一人で、購入してから 15 年可愛がってきた愛車です。当時のボルボは頑丈さが売りで、特にボディは 30 年以上経ちますが、サビーつありません。外車にありがちな電気系統が弱いという事はありましたが、エンジンはいまだに絶好調です。そんなボルボですが、ついにお別れの時がやってきました。理由はワンコが 2 匹増えて家族で移動するのが困難になってきたからです。今までにも夏場にエアコンが効かないとか、駅前で急にボンネットから煙が出てきたとか（駐輪場のおじさんが慌てて出てきて消火器で車が真っ白に・・・）なんてトラブルが発生し、そのたびに買い替えの危機をむかえましたが、何とか今まで家族を説得して踏ん張ってきました。ところが今回ばかりは年貢の納め時。出来れば次も大事にのってくれる人の所へ送り届けたい、という思いでちょっと遠いのですが調布にある 240 専門店に持っていきました。(高く買い取ってくれるという事があるので)上の写真は調布での最後の 1 枚です。 ところで最近、女優の伊藤かずえさんが 30 年以上乗り続けてこられた愛車、日産「シーマ」が新車同様にレストアされたというのが話題になりました。走行距離 25 万キロを超えるという伊藤さんのシーマですが、レストアのきっかけは SNS にあげた 1 年点検の 1 枚の写真だという事です。これが「技術の日産」に伝わり「やっちゃえ、日産！」という流れで一大プロジェクトになったとの事。走行距離こそよびませんが（因みにボルボは 16 万キロ）年式もほとんど同じ、形もセダンという事で自分のボルボと重ね合わせてこの話題に注目していました。 さてボルボにシーマ、何だか旧車愛好会になってしまいましたが、日本では車齢 13 年以上のクルマは自動車税や自動車重量税が重課、18 年以上ではさらに重量税が割増になる、いわゆる「旧車増税」と呼ばれる制度があるのをご存じでしょうか。日本国内で登録されている乗用車の平均車齢が 8.6 年という事を考慮すると、自分のような旧車マニアだけでなく、一般ドライバーの 5 人に 1 人が増税を課せられるという事です。なぜ古い車に乗っていると増税されるのでしょうか。ひとつは環境への配慮で、古い車ほど燃費など環境性能が悪くなるためです。もうひとつは車の安全性で、経過年数が長くなるほど車は劣化し、性能が悪くなります。車は環境に配慮するだけではなく、安全に使用することが義務付けられています。一般的に性能が落ちるのは 13 年と考えられているため 13 年を目安に税金が上がるという事です。「モノを大切に長く使っているのに税金が増えるってどういう事！」自分としてはクルマを買い替えるという事は、新車を作らせまた廃棄させる事につながるので、結局余計なエネルギーを消費して温室効果ガスをたくさん排出する事になるんじゃないの？と考えてしまします。ところが気になって調べてみると、ある程度、燃費のいいクルマに乗り換えると、クルマの製造と廃棄によって排出した分くらいの温室効果ガスは、意外と短い期間で削減できてしまうようです。今回これらの根拠を示す試算等は割愛させていただきますが、新車の燃費向上が著しい現在、13 年、18 年と長い間車を乗り続ける事はあまりエコではないようです(涙)。何だか絶望的な気持ちになってしまいますが、世界に目を向けると日本とは全く異なり、粋な制度を実施して

バブル時代の代名詞「シーマ」が令和の時代に蘇ります。

ヒストリックナンバーを装着しているポルシェ 356

いる国があります。ドイツです！ドイツでは「オールドタイマー」と呼ばれる制度が施行され、税金や車検制度上の優遇処置が設定されています。なかでも製造から 30 年以上経過した乗用車両については、「H ナンバー」と呼ばれる制度により優遇税制が受けられます。「H」とはドイツ語の“Historisch”、日本語では「歴史的」の H を意味します。「H ナンバー」の取得には厳格な基準が設定されていますが、この基準をクリアして文化的価値のあるモデルであることが認められると、車両ナンバーの末尾に「H」が付加された「H ナンバー」が与えられるんです。いかにドイツ人が古い車を愛してるのかが分かりますね。
冒頭のボルボの話に戻ります。今回泣く泣く愛車を手放す事になりましたが、古いもの好きの性分は変わらず次の車もどうしても角ばったデザインに惹かれてしまいます。それを見かねた家族が「プリウスとかエコカーがいいとは言わないけど、絶対にエアコンが効く車にして！」の一言。次回またご報告したいと思いま～す。

建築の宝庫　軽井沢

ビル・ゲイツの別荘

こんにちは、三宅です。新型コロ助が猛威をふるい不要不急の外出が出来なかった時期から一変、ワクチンの普及で一時期よりも落ち着いて来ましたね。とはいえなかなか出かけづらい現状、来夏ぐらいには思い切ってお出かけしたいものです。鈴木が軽井沢にキャンプに行った記事を見て、軽井沢を調べてみました。軽井沢といえば最近ビル・ゲイツが別荘を建てたことで話題ですね。避暑地・別荘地として有名な軽井沢、著名人が建築家に依頼し別荘を建てることが多く、魅力的な建築がたくさんあります。今回は私が面白いと思った軽井沢建築を２つご紹介します。

無機質な宇宙船「山口誠設計　多角形の家」

森の中にポツンと現れる多角形。異質なようで馴染んでみえるのが不思議です。山口誠氏による設計で、二人の音楽家のための住宅として建設されました。あえて木質を一切見せない、軽井沢では珍しい建築です。大開口の窓からは四季折々の軽井沢の自然が大きな絵画のように見えることでしょう。こういった自然の切り取り方は建築家ならではの思想ですね。生活するにはちょっとどうかなと思いますが、アーティストの方なら創作にベストな環境となりそうですね。

軽井沢の自然を楽しむための別荘
「TNA 設計　輪の家」

輪切りにされたような外観の建物。軽井沢の木立を楽しむために、さまざまな高さから、またさまざまな方向に向けて目線を向けられる別荘です。インテリア自体はシンプルナチュラルな作りですが、やはり自然を感じる配慮がされています。天井高が 4m と高く取られていることで、木々の迫力を室内から感じられます。バスルームの浴槽は木々の間近、また床の高さまで下げられていることで自然との一体感も感じられそうですね。ちなみにこの建物、貸別荘なので一般に貸し出されています（ペット可！）。しかし、高いです…。

まとめ

軽井沢にはこの他にもたくさんの変わった建築があります。こうした建築が集まる理由は、別荘であることで住宅としての制約が薄まること、人口密集地でないことで土地の制約が薄まること、この２点のように思います。つまり、建築家が思う存分に自身の思想を発揮できるということです。建築を見て回るだけでも楽しめそうな軽井沢、来年の夏頃には行ってみたいところです！

Bells Kitchen

朝晩ずいぶんと冷えてきましたね。布団から出たくなくて毎朝葛藤です。ふと横を見ると犬たちも「もう散歩ですか・・・」と言いたげな顔で横たわったまま動かず。葛藤しているのは私だけでは無さそうです（笑）。 さあ今年も残すところあとわずか。この時期になると「今年の汚れ、今年のうちに～♪」というCMで流れていた曲が頭から離れなくなります。そうなのよ、分かっちゃいるのよ。とあちこち気になる箇所を見て見ぬふりをしたくなります。これから年末にかけて己と戦う事になりそうです・・・ さて今回のBells Kitchenは漬けて焼くだけ！簡単でゴージャスなハニーBBQ味のスペアリブをご紹介します。Xmasのごちそうはこれで決まり！葛藤だらけの心もスッキリ晴れ渡る事間違いなし！お試しあれ！

【スペアリブ】

材料（4人分）

豚スペアリブ　5cm位のもの16本

塩・こしょう　少々

たれ
- にんにく　1片
- 玉ねぎ　1/4個
- ケチャップ　大さじ4
- しょうゆ　大さじ2
- ウスターソース　大さじ2
- はちみつ　大さじ2
- 酢　大さじ1

スペアリブは全体にフォークで数カ所刺し、塩コショウを少々ふってなじませる。パットに入れ、たれを絡めて途中上下に返しながら1時間以上漬ける。

200度のオーブンで20分焼く。一旦取出し、パットに残ったたれを再度からませ、さらに10分焼いて出来上がり！

編集後記

気が付けば今年ももうあとわずか。昨年に続き今年も年明けからコロナが猛威を振るい感染予防をしながら日常生活を送るwithコロナ時代。新しい日常に慣れつつも、この生活がいつまで続くのか先行き不安な状況が続きます。そんなコロナ禍の中、我が家もwithワンコの新しい日常が始まりました。外出自粛でなかなか遠出は出来ませんが、ワンコと海までの散歩が何気に気分転換♪写真は近所のお散歩友達のワンコたちと４ショット。海に行く途中で西の空があまりにきれいだったので慌ててビーチに出て撮った１枚です。仕事で遅くなり、日が落ちてからの散歩がほとんどですが、うまくタイミングが合えば、年に数回このような絶景に出会えます♪　さても今年１年ありがとうございました！今年は創業10周年という区切りの年でもあり、また昨年事務所を移転して地域の皆様に徐々に認知されるようになった１年でもありました。来年も今年同様、皆様方のお役に立てるよう精一杯精進してまいりますのでよろしくお願い致します！それではちょっと早いですが良いお年をお迎えください！年明けは３月発行予定です。お楽しみに！

感動的なオレンジのグラデーション！